

保育施設における CT の活用と必要性について

お の かく ひさ
小 野 覚 久

(本学兼任講師)

で しま ゆう り
出 島 佑 莉

(NPO 法人 HCA ふくしま事務局長)

よし だ しお り
吉 田 汐 里

(白河市公立幼稚園教諭)

さ とう かず よし
佐 藤 和 芳

(元あさかわこども園園長)

なわ た しょう こ
縄 田 翔 吾

((公財)嘉麻市文化スポーツ振興公社)

【要 旨】

現在、保育所やこども園、幼稚園など保育施設や幼児教育施設において、価値観の多様化や子育てにおける保護者の要望の多様化に端を発する課題はもちろん、人手不足といった社会における課題が山積している。国や自治体ではさまざまな対策が検討され、数々の試みが実施されているものの、業務は年々複雑化しており、子どもに対する対策だけでなく保育者に対する心身的なケアも必要となっている。

そこで、本研究では全国各地で活用されている荒木理論の CT に着目し、これまで CT を導入してきた自治体の事例を基に、その取り組みを始めた足利市においてコ・オーディネーション理論の保育への活用や保育者育成の視点を含めて検討し、その有効性と必要性について示唆を得ることができた。

【キーワード】 コオーディネーショントレーニング、幼児、保育、保育者育成

I はじめに

現在、保育施設および幼児教育施設における課題は山積しており、落ち着きがない、保育者の話を聞くことができないなどの課題をもつ子どもが多くみられるといった報告が全国的に多数ある。また、幼児の課題は、学童期から青年期の学力低下や体力低下、成人期の体力低下や生活行動能力の低下、さらには壮年期から老年期にかけての体力低下や記憶力低下などを含む生活行動能力の低下の課題と関連している。さらに、特にわが国では子どもの自死が諸外国と比べ高い比率となっていることは最も危惧される課題といえる。これらの課題を踏まえると、幼児期の運動や生活習慣は、学童期から成人期及び生産年齢層の精神的な体力、ストレス耐性、意欲や意志力、精神力と言われるものの低下にも大きく影響を与えている。

無論、価値観が多様化している現代において「世代」や「時代」と言われる要素を考えれば、多様化する価値観やそれに伴う保護者からの要望への対応、安全対策などあらゆる状況が保育者の業務を増やし、本来の保育業務からかけ離れた状況を生み、それ自体が課題となっているともいえる。しかしながら、我が国の発展や持続可能な経済活動を考えれば、幼児期における体力や真の学力、さらには精神力における課題の解決は、我が国における現代のさまざまな課題を解決に導くものと考ええる。

II 研究目的

わが国では、バブル崩壊以降約30年間経済は伸び悩み、各年代において体力低下や学力低下、生活行動能力の低下により、身体的、精神的、社会的な健康のすべてにおいて課題があり、保育の現場においても課題が山積している。その要因は複雑に絡み合い、解決策も多種多様であるが、それにより現場の保育者はさらに過酷な状況に追い込まれており、課題が次の課題を呼ぶといった悪循環に陥っているといえる。しかし、国や自治体はその対策にける予算は限られ、また、具体的な対策が見出せない状態である。

そこで我々は、経済的な負担が少なく、比較的容易で誰にでも気軽に取り組むことができ、かつ、大きな効果が期待できる対策がないか考えた。徳島大学荒木秀夫名誉教授の理論によるCTは、現在、全国各地の自治体などにおいて保育の現場でも導入され、その成果も報告されている。そこで、我々は荒木のコ・オーディネーション理論に着目し、荒木らの取り組みや研究および論文などを検証するとともに、取り組みを行っている自治体や団体などの報告やデータ、特に栃木県足利市において公立保育所での実施状況を基に、保育現場における諸問題を解決する方策の一つとしてCTの有効性を検証し、可能性について検

討することとした。

Ⅲ 研究方法

1. 研究対象

- (1) 栃木県足利市公立保育所
- (2) CT を導入している自治体・施設・園等

2. 研究方法

足利市の担当課より提供された CT（以下、CT）導入に関するアンケート結果を中心に、先行して導入している各自治体や施設および園等から発行された報告書および広報誌などを含む文献から、CT を実施もしくは体験した方の感想と、教員・保育者及び指導者の感想など、過去に得られたデータを含む実践事例をもとに検証する。

Ⅳ 導入事例

荒木理論による CT は、先行研究において荒木ら専門家が関わらないと効果が出ない訳ではなく、荒木理論を基に構築されたプログラムであれば、誰が指導しても効果が期待できることが示唆されている。そのため、荒木理論を理解し保育に取り入れることができれば、誰にでも CT を指導することができ、さらに、これまでの保育自体をコ・オーディネーション理論を基に再構築することで、普段の保育が CT としての意味を成すと言える。

ただし、コオーディネーションという言葉は、「組み合わせ」という意味であるため、脳科学や運動生理学などを基盤とし、医学や工学などあらゆる学問を網羅して構築された荒木理論の CT とは異なるものが多い。本研究ではその違いについては述べるもののライプチヒ学派のコオーディネーショントレーニングや多様な動きを行うコオーディネーショントレーニング、シナプソロジーや SAQ トレーニングといったものと分けて考察し、その内容を検討し除外することとした。栃木県足利市の公立保育所において、2022 年に 1 か所で年間に 3 回実施する試験的な取り組みから始まり、2 年目には 6 か所、3 年目以降は 9 か所すべての施設において実施しているため、足利市の取り組みを中心に考察することとした。なお、実施者および担当課の意向を尊重し表現するため、図表についても提供されたデータを使用する。

1. 足利市公立保育所における導入検討

(1) 2022 年度の状況

2022 年は先行的試験的な取り組みとして、1 か所の保育所において年間 3 回のトレーニングを実施した。初めての取り組みだったため 1 回目の実施前後でアンケートを取った。回答した保育士の年代は、20 代、30 代は無し、40 代が 2 名、50 代が 2 名、60 代が 1 名で、経験年数は全員が 20 年以上であった。現在の子どもの問題や課題としてとらえている内容は図 1（複数回答可）に示す通り、「落ち着きがない」「指示が通らない」が 5 人と多く全員が指摘している次いで、ゲーム依存の傾向があるが 4 名であった。

運動と CT に対して期待されることとして、運動では「ケガをしにくくなる」「運動遊びをするようになる」が 4 名と高かったのに対し、CT に対する期待は低く「指示が通りやすくなる」のみで 4 名であった。

CT に対して持っている「イメージ」について自由記述形式での質問には、実施前では「CT という名称自体、知らなかったので運動あそびとは異なるのか、何を重視した特化したものなのかなど、わからない部分がありました。」「実際どんなトレーニングをするのか疑問でした。」「CT とは、どんなことをするのか楽しみにしていた。」「現代において大切なことだと感じた。」「コロナもあり身体への刺激を通じて、運動ができる。」と回答があり、実施後のイメージは、「運動あそびという大きなくくりでは同じだけど、体を動かすだけでなく、イメージしたり、音を聞いたりと五感を使って行うようなイメージ。」「遊びの中でトレーニングをしているので子供達の様子が分かり楽しみながらも個々の子供をよく見ることが出来ました。」「子ども達とコミュニケーションをとりながら、全身を使い、運動機能が高められる楽しい運動あそびだと思った。また、指示や話を聞く力も養われると思う。」「保育の中で、少し意識して体を動かすことでトレーニングにつながってのだと感じた。」「運動を通していろいろ刺激を受けることで、知性や感性を伸ばしていく。」と肯定的な意見が見られた。

そして、CT を実施した際の子どもたちの取り組み状況に対して、意欲などについて自由記述で聞いたところ、「とても興味をもち、楽しんで行っていたが、自分の思いで動くことが多く、話を聞く力、待つこと等の弱さを感じた。」「『楽しかった』『ずっとやっていたかったなー』などとてもうれしそうな表情で参加した感想を伝えてくれました。」「『楽しかった』『またやりたい』『今日の帰りにみんなでやってみようよ』と体験できたことをとても喜んでいた。」などの回答があった。また、実施後の子ども達の変化について、保育者として感じたことを自由記述で聞いたところ、「1 回の実施だったので、連続性をもって行っていく

と、子どもたちにどのような変化が見られるのか興味はあります。」「1 回だけだったので、変化としてまだ見ることはできませんが、『とても楽しかった』という気持ちはよく伝わってきました。」「まだ 1 度の実施なので子ども達の変化は感じられない。」「今日初めての事なのでわかりません。」と率直な回答が得られた中で、CT を今後、導入したいかという質問に、「導入したくない」「あまり導入したくない」「どちらでもない」が 0 であったのに対し、「できれば導入したい」が 4 名、「ぜひ導入したい」が 1 名であった。

(2) 2023 年度の状況

2023 年度は、導入希望調査を行い希望した公立保育所 6 か所で実施し、その前後でアンケート調査を行った。調査対象は実施した保育所のクラス担任保育士等 35 名であった。

保育士の年齢層は図 2、経験年数は図 3 に示す通りである。現在の子どもの課題としてとらえている内容は、図 4 に示す通りで、「落ち着きがない」「ケガをしやすい」「ゲーム依存の傾向」に多くの回答があり、また自由記述では、「ゲームというよりも、YouTube や TikTok など動画の依存傾向がみられる。」など動画をスマホやタブレット端末で視聴している子どもが多いことが指摘され、「車の中、寝る前まで見ているという子もいる。寝る時間が遅い。」とその頻度が別の課題の要因となっていることも指摘された。

「運動」と「CT」に対して実施することで期待できることは図 5 に示す通りで、運動では「ケガをしにくくなる」「運動あそびをするようになる」が高く、「病気になりにくくなる」も CT との比較では非常に高かった。自由記述では、「ストレス発散・体力向上」「ご飯をたくさん食べて、ゆっくり体を休めるようになる」であった。CT に期待することとしては、「落ち着く」や「指示が通りやすくなる」「コミュニケーション能力アップ」が運動に対して高かった。自由記述では、「トレーニング＝運動早く走れる。柔軟性体の使い方を知る」「日々取り入れることで全ての項目に当てはまると思う。」「問 4、と同様自己肯定感が高まる。大人に対する信頼感が高まる」「心が満たされる。・満足感・達成感を味わえる自信がもてる」となった。

CT に対するイメージを自由記述では聞いたところ、主な回答として実施前では、『「トレーニング」と堅いイメージ』『このトレーニングで本当に落ちつきがみられたり集団行動がとれる（指示が入る）ようになるのか疑問』『CT とは、どんなことをするのか？ 意味はなにかな？』『“どんなことをするのだろう” と思っていました。運動遊び（体をうごかして遊ぶ）イメージでした。』『トレーニングを行うことで子ども達がどのように変化していくのか楽しみであった。』『体を動かすことが苦手な子がついていけるか心配だった。』『子どもにとっ

てトレーニング、というとなかなか難しいのではないか。」「指示が一回で通らない子への声掛けやフォローをしなくて良いとの事だったので、どのような行動を子どもがとるのか、また、どのような声掛けをするのかを見られる良い機会であると、とても期待していた。また、どのような活動をしていくのか分からなかった。」「初めての経験だったので、どのようなトレーニングに興味をもて子ども達がどのような発達がみられるか楽しみだった。」「体幹を鍛える。細かい体の魅か体操、運動を行う。細かい体の動かし方トレーニング運動」「初めて聞いた名前だった為、1年を通じて何をやるのか分からなかった。」「初めて聞くトレーニングなので、どんな事をするのか、とても楽しみにしていた。」「トレーニングということばが固いイメージを持っていて、型にはまった運動かと思っていた。」「どのような感じかわからず、子どもが楽しめるものなのか少し不安はあった。」「様々な用具を使って、体を動かすことを楽しむ。」「実態がよくわからず、運動用具を使ったあそびだと思っていた。」「指示を聞き、自ら動くのは年齢にもよるが難しいのではないか。」「コミュニケーションによる運動」と回答があり、ある意味で否定的なイメージが強く感じられた。

一方、実施後では、「楽しい活動、子ども自ら参加したい遊び」「指示で動くだけではなく、自分で考えたい、友だちと工夫する動きもあり、楽しく体を動かすことができる。」「楽しい（楽しそう）体だけでなく内面の成長、発達につながる。」「運動面にとどまらず、心の発達面にも良い経験、影響を及ぼしていると感じている。」「子ども達が楽しんで体を動かしながら、参加し、それが自然とトレーニングにつながっていた。子どもの主体性を大切にしている指導が勉強になった。トレーニングを通して子供たちの運動機能が高まり、落ち着きやケガの減少につながっていることを感じた。」「カラーコーンや、ボール、ボールを使用してこんな運動ができるんだ！子どもたちの発想は思いつかないことばかりなんだな。というイメージ。」「体を動かしたり、自分の力や体を上手にコントロールするイメージ」「自分で考えて行動しながら楽しく体を動かす。」「運動しながら友達とのコミュニケーションを取ることができ、楽しく活動に取り組むことができるイメージです。」「回を重ねるごとに子ども達に変化していく様子が見られ、トレーニングを継続していくことで、集中力、話を聞く力体力、コミュニケーションが育ていくと思った。」「とてもよいと思う。伸びざかりの幼児によいと思う。」「回数を重ねていくうちに話を聞こうとする姿が変化したり、待つ事が苦手な子が待てるようになったりと、自主性が育っているのが目に見えて分かり、子ども達にプラスになり、良いイメージ。」「経験を重ねるごとに子ども達がトレーニングの内容を把握し自分達からやりたいことを言ったり、指示を聞き活動できるようになり繰り返し取り組むことが大切だと気づけた。」「子ども達の自主性を育むことが出来る。」「体

操、体を動かしたり、自分で考えて、バーやコーンを動かす場面があったり、コミュニケーションをとったり、体を動かすだけではない。」「同じトレーニングをする事で、子どもも慣れ、スムーズに動けるようになった。」「トレーニングを重ねていくとできなかった事ができるようになったり、自分で考えてできる範囲で動いたり、自分で考えて動くという事ができるようになる。」「子ども達の意志を尊重した運動あそびで楽しむことができていた。」「子どもが主体的に考えながら体を動かすことやバランスをとれるようになることなど忍者遊びの中で活動が広がると共に楽しんで行えた。」「子どもの主体性を伸ばしたり、友だちと協力するきもちがもてるようになったと感じる。」「体力づくりだけではなく、リズム感やバランス感覚なども鍛えることができる。」「遊ぶだけではなく、友達と協力して行動すること、コミュニケーションなど色々な子どもの姿が見られた。」「子どものやりたい気持ちを引き出し、集団で行う楽しさを子どもたちは知った。」「考えたり、協力したりして体を動かすことで、運動能力だけでなく考える力やコミュニケーション能力も高めることができる。」「楽しく体を動かしながら、行動のバランスがとれていくように感じる。」「準備運動で行った、リズムに合わせて身体を動かす動きを見て、瞬時に判断し、行動に移す（動）様子に聞く力や判断（考える）力も養えるのではないかと思った。」と肯定的な回答が多かった。回答の中に「正直、あまりかわらない。」といった回答があったことについても、先行研究でも同様の事例があり、正直な感想が得られたことがこのアンケート調査の信憑性の高さともいえる。

子どもたちの取り組み状況として、自由記述の回答では「忍者修業と言って毎回楽しみにしている。先生も大好きであるが、近づきすぎて指示が入りにくいところがあるなど感じている。」「“忍者の修業”と題して取り組んでいた為、「忍者みたいに～しよう」という声かけで意欲的に身の回りのことを行なう姿が見られた。」「運動会の競技に取り入れた。『修業』といって楽しく参加していた。」「毎月とても楽しそうに活動していました。」「『こんなことをやった』『こうやりたい』等会話をしながら様子を伝えており、楽しんでいることが伺えた。」「CTの日をとても楽しみにしていた。子ども達に対し、やる気を引き出すような言葉を掛けていたため、子ども達も、講師の先生に親しみを持って参加していた。好きなトレーニング（ジャングルおにごっこ）を通し、普段の保育では見られなかった協調性や、リーダー性を見ることができた。」「体を動かす楽しさを感じられてよかった。」「指示をきこうとする力が育っていくように感じた。」「次は何をするんだろう、先生は何て言うんだろうとワクワクした気持ちで先生に注目していた。」「運動に苦手意識がある子も、無理なく楽しんで取り組んでいた。」「初めからワクワクした気持ちで取り組める子、そうで

ない子と様々であったが、回数を重ねることでどういうことをやるのか理解したり、新しいことを取り入れて、楽しく体を動かすことができ、皆が笑顔で行えたことはとても良かったと思う。」「初めのころは、自信がない子や、苦手な動きなど、参加しない姿が見られましたが回を重ねるごとに、出来るようになったり、楽しさや、友達と協力する姿に変わり、成長を感じました。」「すごく楽しんで行っていました。以前行ったことを覚えてして、『あれやりたい』と意欲が高まっていました。」「ご指導してくださる先生の話の聞きながら、子どもたち一人一人が楽しく体を動かし取り組んでいた。集団で活動することが苦手な児も参加しようとする姿が見られ、良かった。」「毎月のトレーニングを楽しみにしていた特にジャングル思ごっこが気に入っていた。」「ふだん集団活動が苦手な子も、進んでとりくんでいる姿に成長を感じ、とても嬉しかった。」「忍者は、好きなワードであったり、子どもたちに話しかけている所が親しみを持てるような語り方であったため、興味を持って行っている様子が見られた。普段の保育にはなかった曲を使用したり、障害物の鬼ごっこなど楽しんで行っていた。楽しそうであった。」「毎回、とても楽しみにしていました。前日にCTがある事を知らせると大喜びでした。」「いつもと違う動きや見立てに喜んで参加していました。」「月1回の実施でしたが、毎回楽しみにしていたので、全員が前向きに参加できていました。『考える』『工夫』『協力』が自然に出来るようになってきているのを実感しました。」「講師の先生の話に関心をもち、回を重ねるごとに自信をもって取り組んでいた。」「とても楽しそうに行っていた。先生の話もよく聞いていたと思う。」「講師の先生が来ることを、楽しみにしていて、普段はあまり体を動かさない子も、積極的に体を動かしていた。」「積極的に取り組み、回を重ねるごとに指示を良く聞くようになった。また、友達と協力したり、体を動かすことを喜び、進んで参加するようになった。」「毎月、CTをととても楽しみにして、意欲的に取り組んでいる。個人差はあるが、トレーニング中は、落ちついて先生の話の聞くことができるようになってきた。」「毎月のCTを楽しみにしていました。4月のころから比べると、子どもたちの動きが機敏になったように感じました。」「子ども達が活動に引き込まれ、一人一人が意欲的に参加する姿が印象的である。」「友だちと気持ちを合わせて、楽しく遊んだり、主体的に体を動かしチャレンジしたりしている。」「楽しく参加することができた。また、友だちと協力して一つのものを作ったり、作戦を立てたりして、話し合う姿がたくさん見られた。」「CTに対する期待感や意欲が高まっている。当日を楽しみにしている。」「普通とは違う動きを経験することで、最初はとまどいを見せていた子も、全てを受け入れてもらえることで安心して参加できるようになった。」「最初はどんなことをするのか不安そうな子もいたが、回を重ねていくうちに楽しさがわかりどの子もよい表

情で参加していた。『次はいつ?』『また〇〇やりたい』との声が聞かれ、意欲が高まった様子が見受けられた。」と回答があった。

実施後の子どもたちの変化としては、図6に示す通り、「コミュニケーション能力アップ」が多く、「ゲームの頻度が低くなる」も比較的多かった。自由記述では、「年少、年中、年長での様子をみていたので各年齢やクラスによる子どもの動きのちがいが発想のおもしろさを感じた。」「CTの成果はよくわかりませんが、とても、よいプログラムだと感じています。一人一人が楽しく参加している運や、友達と協力して、1つの物を作り上げる姿が印象的でした。日頃の遊びの中でも、協力したり、相手の意見を聞こうとしたりする姿が増えてきました。」「楽しみながら身体を動かしていた。身体を動かす楽しさを経験できた。」「体を動かすことに対して抵抗があった子も意欲的に参加できるようになったと感じる。」「月1回であったため、週1回のペースであればとても変化がみられると感じる。」「低年齢児や、家庭で正しく甘えられていない子は、“もっと甘えたい”もっと発散したい」と、自己発揮しながら集団活動から多少の脱線が見られ、逆に年長児などではルールを守る達成感や満足感を味わいながら、回を重ねるごとによりスムーズに活動に集中できるようになっていく姿が見られた。」「挑戦しようとする子が増えたように感じた。『わからないからやりたくない』『失敗しちゃうからやらない』という子が減り、成長をうれしく思った。指導の仕方、声かけの仕方など大変勉強になった。継続して取り組んでいきたいと感じた。」「よく分からない。」という回答が得られた。今後の導入したいかという質問に、「導入したくない」が1名、「あまり導入したくない」が無く、「どちらでもない」が1名であったのに対し、「できれば導入したい」が13名、「ぜひ導入したい」が18名であった。

(3) 2024年度の状況

2024年度は、導入希望調査を行い公立保育所全9か所で実施し、その前後でアンケート調査を行った。調査対象は実施した保育所のクラス担任保育士等で実施前が43名、実施後が47名であった。保育士の年齢層は図7、図8、経験年数は図9、図10に示す通りである。

トレーニング前の子どもの課題としてとらえている内容は、図11に示す通りで、その他の自由記述では、「ゲーム、動画をたくさん見ている。寝る時間が遅くなってしまう。」「集団活動が苦手である。」「理解力やできることが低下してきている、転びやすい。」であった。

CTに対する実施前のイメージを自由記述で聞いたところ、「子ども達の主体性が育まれていると感じている。」「全身運動をすることで脳が発達し、様々な機能が整ってくる。」「自ら考え行動する。」「こども達の気持ちに刺激を与えながら楽しく運動する。」「子どもの発達

の動きや運動面が高まっていくのではと思いました。」「体幹が鍛えられる、運動機能が高まる。」「楽しく体を動かしながら指示を理解したり、自分で判断する力が身につく。」「脳と体が連携しスムーズに動かせるようになる、運動センス＝自分の体を自由自在に動かせる。」「身体を動かして遊ぶ」「指導員の話をよく聞いて、体を思う存分動かし、コミュニケーションを図るイメージです。」「様々な運動活動を通して子どもらしく成長できるイメージです。」「体の動かし方を知ることができる、子どもの意見を取り入れながら活動を進めていく。」「体の使い方が上手になる、指示が通りやすくなる。」「体を使って遊んだり、考えて行動する。友だちとの協力、協調性を高める。(あそびの中から体を使う) 忍者をイメージして楽しく体を使う。」「体力づくりだけではなく、リズム感やバランス感覚などもトレーニングできる。」「子どもたちの好奇心を高めながら、想像する力、指示を聞く力、そして、その力を実践してみようとする力へとつなげていく。」「運動を学ぶ力を育てる、楽しく、安全に運動する。」「楽しくからだを動かしながら『静』と『動』が分かっていくのだろうなというイメージを持ちました。」「体をたくさん動かして遊び、楽しむ。興味、関心をもって話を聞こうとする。」「体力がつき、集団行動ができるようになる。」「CTを通して、どのように子どもたちが変化していくのか興味があります。保育士は見守りでいいと聞いているが、どこまでその対応でいいのか心配です。」「運動機能や集中力が高まる。」「体の使い方(いろいろな動き)や話を聞いて行動する力を学ぶ」「運動能力の向上、話を聞く力が身につく」「子どもと一緒に体を動かすことで、子どもにとっては楽しく体を動かすことができ、保育者にとっては指示の出し方(子どもにわかりやすい声掛け)のバリエーションが増えるのかと思う。」「体幹が整うと聞きました。とてもすてきだなとイメージしています。」「身体を動かすことで体幹が育つ? 身体の使い方を知る。」となり、実施前に期待することとしては図12の内容に加え、自由記述では、「主体性が育まれる。」「身体を動かして遊ぶ楽しさ、協調性、仲間意識」「自分で考えて行動することができるようになる。」であった。

子どもたちのトレーニングの取組状況について、実施後に自由記述で回答を得たところ、「友達の意見をきいて考える。体の使い方がうまくなった。」「周囲に気を付けながら、体を動かせるようになってきた。身のかかわし方がスムーズになってきた。」「毎回自分たちの思いを受け止めてもらいながら活動できていたので、意欲をもって取り組んでいた。」「回数を重ねる毎に子ども達の意欲が増し、CTを楽しみにする姿が見られました。」「運動機能が向上した。以前よりケガをしにくくなった。」「回を重ねる毎に、先生に会えることが楽しみな様子で、毎回あっという間の時間だった。普段、自分からは体を動かさない事も、嫌がる事なく参加する姿が見られた。子ども達の姿を客観的に見ると、思っているより話を

聞いていたり、順番を守ったりすることができていた。次回を楽しみにしているようです。」

「毎月、トレーニングの日を心待ちにしている様子がみられ、毎回、意欲的に参加していました。」「4月の時と比べると、少しずつではあるが、自分で行動したり、積極的に取り組むようになったと感じる。」「外部講師の方から指導を受ける機会を楽しみにしていた。用具を作った運動では『自分でやってみたらできた』という経験を沢山得られ、積極的に取り組んでいた。普段の遊びとは違う体の動きをすることを楽しんでた。」「友だちや物との距離感が取れるようになった。ケガが減った。協調性が出てきた。個々の気なる行動が見えてきた。」「子どもの声を否定せずに関わることで、自然と子どもが大人（講師や保育者）の指示に耳を傾けるようになったと思う。」「毎回楽しみながら参加している。忍者の修行に見立てることで、自然と体幹を使い、自分で考えて動くことで、積極的に運動することができている。」「指示を聞こうとする力、指示通りに動こうとする児童が増えてきたように感じる。回数を重ねるうちに、消極的だった子も喜んで参加するようになり成長を感じている。」「考えや要望を積極的に表現していた。運動が苦手な子も楽しんで取り組んでいた。」「2回目のコーディネーションで、4月から回を重ねるごとに子ども達が協力する姿や身体を動かすこと、話を聞く姿など成長を感じている。」「普段から、話をよく聞いている子は、指導者の声かけにより、素直に一生懸命行おうとする。落ち着きのない子は、前の子を抜かしたり、用具を蹴飛ばす等、過剰な動きが目立つ。」「3歳児クラスは1人がふざけると真似る子が半分以上いるため、先生の話聞いて取組みたい子が行えない状況です。」「とても楽しみにしている。話を聴いて行動し、自分で考えている。」「とても楽しく参加していました。楽しくなりすぎてしまい、気持ちが高ぶってしまい説明を聞かなかったり走り回ったりする姿もありました。」「毎回楽しみにしていて、興奮気味に参加している。気持ちが高揚しすぎて話が聞けないなどの姿がある。」「友達と話し合いながら協力して取り組んでいる。自ら考え、遊びに活かしている様子が多くみられる。」「講師の話をよく聞き、意欲的に取り組んでいる。」「活動を楽しみにしている。リーダー的な存在ができ、まとまりながら作戦を考えている。クラス全体が1つの目標目的にむかっている様子が見られる。」「意欲的に参加しており、毎月楽しみにしている様子である。講師の先生の名前を覚え、親しみを持って取り組んでいる。」「毎回楽しみにしている。運動が苦手な子も定期的にトレーニングを行うことで、意欲的に取り組むようになった。」「『忍者の修行』と言って、楽しく取り組んでいた。」「子どもたちは毎回、CTを楽しみにしていて、意欲的に体を動かし、取り組んでいました。特にジャングル鬼ごっこでは、友達と協力しながらカラーコーンやバーなどを置くことから楽しめていたので良かったです。」「喜んで参加している。協力し合う

活動に積極的に参加している。」「楽しみにしている時間でうれしそう。やってみよう、やってみようという意欲がみられる。」「ケガをしにくく。転びにくくなった。」「毎回楽しみにし、『先生に負けないういばい食べる』と食への意欲も見られます。当日、注意されない事ではめをはずしてしまう子がいるのは気になっています。」「CT の日を楽しみにしている。」「今日は何をするんだろう』と子ども同士で話していて、意欲が高かったと思う。」「とても楽しく参加している。繰り返していくことで、だんだんと指示を聞こうとする姿も見られるようになってきた。」「毎月コーディネーションの日を楽しみにしている。意欲的に取り組む姿がみられている。」

実施後の子どもたちの変化として、図 13 に示す通り、「運動遊びをするようになった」が 30 名と非常に多く、「ケガをしにくくなった」が次いで 17 名、「コミュニケーション能力が高まった」が 15 名と比較的多かった。自由記述では、「年間を通して同じ活動を行うことで子ども一人一人の成長を感じた。(体の使い方や話の聞き方など)」「子どもの特性を踏まえてのクラス運営についてアドバイスをいただきたい。」「『皆で一緒に作ろう』という場面で、自分の意見を言ったり、相手の考えを聞こうとする姿が見られるようになってきた。」「遊び方に工夫や発展がみられるようになった。」「運動器具の使い方を知ることができた。」「活動量が増え、偏食がなくなってきた。体幹がついたように思う」「指導の前に、どのような意図で行うのか、説明してもらえた回はわかりやすかった。」「体を動かして遊ぶ楽しさを感じる。」「体の動かし方がスムーズになった。」「先生とのやりとりを通して、指示が通りやすくなったりコミュニケーション能力が高まったと感じている。」という回答をえた。

2. 福島県での導入事例

福島県においては、初めに本格的な導入を行ったのは白河市であった。導入の切掛けは、東日本大震災とそれに伴う原発事故の影響によって当時の子どもたちの健やかな育ちが危惧され、その対策として徳島大学との連携協定プロジェクトの一環として導入された。2014 年より公立私立を問わず希望する幼稚園・保育園・こども園に訪問指導が行われ、また、同様に希望する公立小中学校にも訪問指導が行われた。荒木らが考案した運動プログラムを子どもたちに実施することで、原発事故発生時に屋外での活動が制限された子どもたちの総合的な健康を担保する取り組みとして認識され、教員等がその理論と指導方法を学び習得することで、持続可能な被災地支援として考えられた。また、SDG's の視点からも非常に優れた取り組みである。この取り組みを皮切りに、2019 年に浅川町のこども園幼稚

部で取り組みが始まり、大きな効果をあげている。可能な場合には保育部の2歳児クラスでも実施し、幼稚部への進級準備としても効果があった。これは当時のこども園園長の感想からも、「年間8回から10回の実施で、子どもたちの様子に「じっと座って話が聞けるようになってきた。」「テキパキとした行動ができるようになってきた。」等の好影響が見られるようになってきた」や「卒園式の練習等で子どもたちが落ち着いて参加し、指示や指導された内容を理解で知るなど顕著に現れた。」という実感からの感想が得られていることから、定性的な評価ではあるが効果があることが分かる。この時の内容も複雑な運動や高度な運動ではなく（図14）、用具も平均台、カラーコーンやコーンバー、ロープなどの普段の教育活動などにも活用できるものを使用して行われるため、経済的にも負担が少なく実施できる取り組みであった。浅川町での取り組みを参考に平田村のこども園でも2022年に取り組みが始まり、2024年からは棚倉町でも本格的に導入され、同時にトレーニング効果が表れてきている感想が指導者の聞き取り調査により得られた。

なお、白河市では2018年頃から乳幼児から高齢者までの全市民を対象とした取り組みを模索し、2019年度に高齢者の健康の保持増進をねらいとして、高齢者に対し「らく楽健康体操」と銘打ちCTを普及している。

3. 福岡県嘉麻市の事例

福岡県嘉麻市は、2013年から全国に先駆けてCTを導入し、荒木自身がその活動に大きく関わっている全国でも唯一の自治体である。プロジェクトKと名付けられたその取り組みは公立保育所におけるCTから始まった。トレーニングを受けた幼児が小学校入学時に精神的身体的な落ち着きが見られただけでなく、図15のように体力テストや図16の学力テストの結果についても、大きな向上が見られた。さらに図17に示される通り不登校児童生徒出現率にも大きな効果が表れた。

これは学校・園・施設等における近年の課題を解決に導く方策であるとともに、限られた労力で大きな効果が得られる施策である。現在、市長を先頭に市をあげてCTを活用した取り組みを行っており、2024年3月に策定された第2期の嘉麻市スポーツ推進計画には、巻頭の「はじめに」で「単にスポーツ参加の機会を保証するということに限らず、運動・スポーツの社会的意義の重要性を広く市民に理解してもらい、地域におけるコミュニティづくりと地域の活性化という意識を高めるスポーツ推進策が必要であると考え、平成26年度に第1期となる「嘉麻市スポーツ推進計画」を策定し、様々な立場の人が集まって、乳幼児（胎児）から高齢者、障がいのある人に至るすべての市民を対象に、誰もが健康で活動的な生

活ができ、生きがいをもつまちづくりを目指すため、「プロジェクトK」に基づき、「荒木式CT」による運動指導を通じて、まちづくりと地域の活性化に努めていると、急激な社会情勢の変化を踏まえ、既存の枠組みや考え方にとらわれずに柔軟な対応を心がけ、引き続き「荒木式CT」を取り入れた「プロジェクトK」を通じて、運動の本来の目的である知性、感性を育み「人材宝庫のまち、嘉麻市」の実現に向けて、今後の10年間の本市におけるスポーツ推進の指針となる「第2期嘉麻市スポーツ推進計画」を策定した。」と述べている。

また、「嘉麻市では「荒木式CT」による運動指導を通じて、まちづくりと地域の活性化を進めています。「荒木式CT」はスポーツや運動に限らず、児童・生徒の学習支援、発達障がいのある子どもの支援、高齢者の健康増進など、将来的に幅広い活動を視野にしています。人間の能力は、運動が得意、音楽が得意、勉強ができるといったように、実に個性的です。そして、苦手なものもあります。しかし、この人間の能力は土台がしっかりしていれば、いろいろな能力が相互に関連し合いながら向上し、楽しくいろいろなことができ、豊かな人間性を育むことができるのが本来の姿です。この背景として、現代の科学によって運動がいかに多くの能力に関係しているかが指摘されるようになったことがあります。それは、単に健康のために良いとか、病気の回復に良いとかといった、単に身体に関係することだけではなく、知的能力やコミュニケーションの能力にも関係していることが分かってきたこと」として、「音楽、コミュニケーション、思考力、豊かで創造的な運動が関係しています。人間の「動き」は、多くの神経系の回路が複雑に関係しますが、その土台となる共通した部分を刺激することによって、しっかりとした「学ぶ力」を得ることになり、いろいろな能力を同時に引き出すことになります。これを目的とする運動指導が、「荒木式CT」です。」(図18)として、単なるスポーツ振興や運動能力の向上をねらうのではなく、学習能力を高め、人間のあらゆる能力の向上を図ることをねらいとしている。

さらに、「「プロジェクトK」は、人材輩出・育成、地域の活性化をスポーツ・運動、日常の生活活動の改善を通して推進することを目的とする行政と市民の協働の取組みを指します。」「プロジェクトKは、各年代を対象としたCTのプログラムによって構成され、多くの団体、個人の協働と連携によって市民の間に幅広く普及させることを目標にします。(図19) プログラムは、各年齢層を対象とした8つのプログラムを基本にし、さらに障がいのある人や障がいのある子ども、スポーツ少年少女、スポーツ選手を対象とした、さまざまな目的に応じたCTのプログラムや、身体運動や身のこなしを通じた知性、感性の育成を目的としたプログラムも含まれます。」として、すべての市民に対して提供されており、「“プロジェクトK(嘉麻市モデル)”では、いろいろな年代、階層に応じたプログラムを準備し

ています。それらは、人間が本当に学ぶべきこと、経験すべきことを、人工的な環境の中でも次の能力へとつなげるための「本来の自然な刺激」によって能力を発達させようとする「荒木式 CT」のプログラムによって構成されています。「プロジェクト K」では、これらの実践を、一つひとつを確かめながら、さらに良い方法を見つけていくことが活動の大きな柱となっています。“プロジェクト K（嘉麻市モデル）”は、すべての市民を対象にしています。CT 指導によって、身体、脳、心の育みを通じた人材育成を目指すのが最大の目的となります。“人材宝庫のまち、嘉麻市”の実現に向かっていきましょう。」としていることで、嘉麻市が CT を活用し、人材宝庫のまちを目指し保育にも活用していることがわかる。(図 20) このような点からもコ・オーディネーション理論と CT は、あらゆることに活用でき、効果が期待できるものであると言える。

嘉麻市においては、教員や保育者から相談を受け、解決方法についてアドバイスをを行ったり、また職員とともにカンファレンスを行ったりした事例もある。近年、保育教育現場における教員や保育者の抱える負担が大きいため、子どもへの直接的アプローチもあるが、この取り組みが教員や保育者の心身の負担を軽減することとなった。また、支援教育などの解決策を見いだすことがなかなか難しい課題への対応にも、子どもたちの生活行動に劇的な変化が見られただけでなく、保育者が普段の教育や保育の際に実際にどのように接したらよいかという具体的なアドバイスがあり、保育現場における課題を解決する特に大きな効果が見られた。

V 考察

栃木県足利市において、CT の導入により、公立保育所で保育士の負担や不安が軽減される効果が見られた。一部に否定的な意見や効果があまり感じられないといった感想が見られたものの、特に注目すべき意見・感想として、「好きなトレーニングを通し、普段は見られなかった協調性やリーダー性を見ることができました。」や「友達と協力したり、体を動かすことを喜び、進んで参加するようになりました。」「挑戦しようとする子が増えたように感じました。」「わからないからやりたくない」「失敗しちゃうからやらない」という子が減り、成長がうれしい」「月 1 回の実施でしたが、毎回楽しみにしていたので、全員が前向きに参加できていました。」「考える」「工夫」「協力」が自然にできるようになってきているのを実感した。」という身体面の変化に加え、精神面での変化や集団生活の中で培われる子どもの社会的な行動の変容が見られている感想が得られた。これは、福島県の市町村や福岡県嘉麻市の先行事例などからも同じような結果が得られたとともに、CT 活用の大きな可

能性を感じさせる結果が見られた。

近年、保育施設ではさまざまな課題が山積しており、先行研究でも様々な検討が行われてきたが、これまでCTについて幼児や高齢者、学校教育や社会教育といったカテゴリーに分けた考察が行われてきた中で、保育施設の問題を解決できる取り組みとして期待し、足利市の担当課におけるアンケート調査をもとに、嘉麻市や福島県の市町村の調査や計画、施策を広報誌と各市町村の担当課からの情報とデータの提供により、検証と考察を行った。

CTが体力や学力、精神的な落ち着きに良い影響が期待できることは先行研究において示唆されているが、さらに今回の調査研究において、保育者が抱える課題や子どもの抱える課題に 대응することができることが示唆された。これまでもCTは、看護技術の向上などにも活用された事例があるため、対物操作や対人関係の改善という意味でも保育分野における人材育成のひとつの手立てとして活用できると考える。

日本経済が長期にわたり停滞し、各自治体の歳入が減少してあらゆる予算が削られている中で、非常に残念ながら保育に関する予算は、全国的にどの自治体においても厳しい状況にある。その状況でCTとコ・オーディネーション理論の活用は、経済的にも導入しやすいものであると言える。特に様々な課題を一つの方法で解決に導くことができ、経済的負担が少なく導入できるメリットは、とても有効かつ持続可能な取り組みであると言える。足利市において保育者がその効果を大きく感じていることは、何よりの結果を得られたと言える。

Ⅵ 終わりに

荒木理論のCTは、考案者である荒木が長年の研究によって開発したものであるが、現在も常に更新され続けている。人間に関する科学が常に更新され続けている現状を考えれば当然である。荒木のコ・オーディネーション理論とそれに基づき考案されたCTを保育に活用することで、保育における諸問題が解決に向かうことを期待する。また、CTが人材育成プログラムとして、地域に人財を生み出す取り組みになり得ることも大いなる希望である。現在、CT活用の可能性をさらに広げるため、CTを活用した世代間交流をねらいとして、幼児と高齢者が一緒にCTを行う試みが行われている。現状、単に幼児と高齢者が共に楽しみながらトレーニングを行う取り組み（図21）として行われているが、今後、地域の高齢者が園や施設を訪問しCTを指導する取り組みとして実施することが可能か検証していきたい。世代を越えたコ・オーディネーションにより、相乗効果が生まれ、さらなる保育に対する効果が期待できるのではないかと考える。

子どもたちや教員や保育者を笑顔にし、保護者をも幸せにするプログラムとして CT に着目し研究を開始したが、コロナ禍により実験的な効果検証や測定などを用いた効果検証が難しく、個人情報保護の観点からも情報収集やその検証が難しくなった中で、今回協力いただいた市町村の担当課には大いに感謝したい。コーディネーション能力は数値として測れないという側面からも、実施者や体験者の感想やアンケート調査を中心に効果検証を行ってきた。CT を普及することで、子どもたちが健康で幸せな生活が送れるようにできると考えるため、今後は数値的にも効果を検証し、研究を深めたい。

引用・参考文献

- 1) 荒木秀夫、2008、「コーディネーション運動—トレーニング実践ガイド—」、((財)健康・体力づくり事業財団)
- 2) 荒木秀夫、2008、「「コーディネーション」から「コ・コーディネーションへ」」、(『スポーツ方法学研究』22)、p129-144
- 3) 小野覚、2012.1、「パパ力向上プロジェクト プロに御指南 心身の成長に一役 親子で COT に挑戦」(『Junction』 Vol.74、いわき民報)
- 4) 久保田洋一、荒木秀夫、2012、「CT が子どもの運動能力等に及ぼす効果に関する調査研究報告書」((特非)日本 CT 協会、(財)笹川スポーツ財団)
- 5) 小野覚久、2013.11 ~ 2014.3、「子育て・子育て 震災から復興へ 学力と体力の向上を目指して」(いわき民報)
- 6) 新美綾子、2014、「看護技術が「できる」ためのコーディネーション能力向上を目指したトレーニングプログラムの開発に関する研究」(愛知県立大学博士論文 (未公開))
- 7) 嘉麻市スポーツ推進課、2014、「嘉麻市スポーツ推進計画 (第 I 期)」
- 8) 原田新、小野覚久、高橋直樹、伊槻悟、大岩由利恵、坂本和歌子、山田真理、渡邊凌、佐藤高則、中山信太郎、2014.12、「ふくしまとくしまともに輝こうプロジェクトの活動報告」(徳島大学 FD 推進プログラム大学教育カンファレンス in 徳島、ポスター発表資料)
- 9) 小野覚久、村中貴恵、伊槻悟、井上翔太、小林大起、都築弘充、森健太郎、大岩由利恵、坂本和歌子、山田真理、高橋直樹、渡邊凌、佐藤高則、山本真由美、中山信太郎、2016.1、「東日本大震災から学ぶ、防災教育の実態のあり方〜福島と徳島における放射線教育についての調査報告を含めて〜」(徳島大学 FD 推進プログラム大学教育カンファレンス in 徳島、ポスター発表資料)
- 10) 嘉麻市教育委員会、2016、「家庭のできる (乳児) CT」(嘉麻市スポーツ推進プロジェクト K スポーツ推進係)
- 11) 佐藤高則、秋吉研、Ahmed Ibrahim Elhossany Elmarhomy、武岡大輔、時久栞、井上翔太、小林大起、都築弘充、森健太郎、小野覚久、山本真由美、中山信太郎、2016.12、「東日本大震災から学ぶ防災教育の実態と課題」(徳島大学 FD 推進プログラム大学教育カンファレンス in 徳島、ポスター発表資料)
- 12) 阪間稔、中山信太郎、佐瀬卓也、西澤邦秀、佐藤一雄、松本絵里佳、坂口由貴子、長野介、誉田栄一、山本真由美、吉田みどり、桑原義典、三浦哉、小野覚久、荒木秀夫、紀之定和代、田中耕市 2017、「[報

34 國學院大學栃木短期大學紀要

- 告] 徳島大学における原子力災害復興住民支援プロジェクト放射線教育・運動指導・発達支援の統合プログラムの紹介」(『放射線生物研究』第52巻第1号) p95-114
- 13) 白河市広報、2018. 1 ～ 2018.12 「しらかわコーディネーションプロジェクト」(広報しらかわ平成30年1月～12月号)
- 14) 嘉麻市、2018.6 「広報嘉麻」
- 15) 白河市教育委員会、2019、「白河市CT指導者用テキスト」
- 16) 小野覚久、縄田翔吾、高橋美紗江、2021、「CTの有効性について－子どもの体力、健康、生活行動に対する効果について－」(『足利短期大学研究紀要』第41巻) p 23-30
- 17) 渡部琢也、小野覚久、沖和砂、2021、「コロナ禍における運動指導実践報告」(文部科学省『情報ひろば広報企画展示発表資料』)
- 18) 小野覚久、出島佑莉、関根弘子、佐藤和芳、伊藤弘行、縄田 翔吾、2023、「教育現場におけるCTの特別な支援への活用法と効果－コーディネーション理論によるトレーニングが、特別な支援および幼児、児童、生徒の落ち着き等に及ぼす効果について－」(『足利短期大学研究紀要』第43巻) p9-18
- 19) スポーツ推進課、2024、「嘉麻市スポーツ推進計画(第Ⅱ期)」
- 20) 足利市、2024.6、「広報誌あしかがみ」(『足利市広報』令和6年6月号) p 3-5
- 21) 小野覚久、塩田正子、佐藤和芳、塩田幸男、吉田汐里、田村優貴、出島佑莉、2025、「CT指導における指導者の年齢や経験に対する諸条件の検討－荒木理論コ・オーディネーショントレーニングの生産性に関する考察－」(『足利短期大学研究紀要』第45巻1号) p15-24
- 22) 小野覚久、出島佑莉、吉田汐里、佐藤和芳、2025、「子どもの言語理解と習得のための教育方法の検討－荒木式コ・オーディネーショントレーニングの活用を通して－」(『足利短期大学研究紀要』第45巻1号) p25-32
- 23) 「らく楽健康体操(解説あり)」、参照日:2025年9月1日、参照先:YouTube 白河市公式チャンネル:
https://www.youtube.com/watch?v=8gRtUCH_T0I&t=594s
- 24) 「神経シゲキ体操」、参照日:2025年9月1日、参照先:YouTube 『Toyota Global』(TOYOTA 公式チャンネル) <https://www.youtube.com/watch?v=Os6tCl2WAhY>
- 25) 「神経シゲキ体操(解説付長編 ver.)」、参照日:2025年9月1日、参照先:YouTube 奈良県警察公式チャンネル:
https://www.youtube.com/watch?v=hWra1KD_M80
- 26) 「らく楽健康体操をはじめましょう!」、参照日:2025年9月5日、参照先:白河市ホームページ:
<https://www.city.shirakawa.fukushima.jp/page/page006354.html>
- 27) 「プロジェクトK」、参照日:2025年9月5日、参照先:嘉麻市ホームページ:
<https://www.city.kamalg.jp/site/prok/>

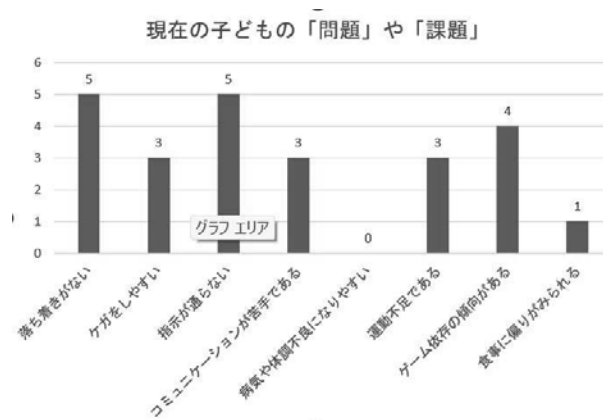


図 1 2022 年度足利市「現在の子どもの問題や課題」

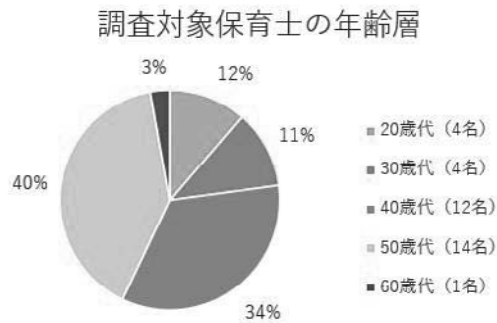


図 2 2023 年度足利市「調査対象保育士の年齢層」

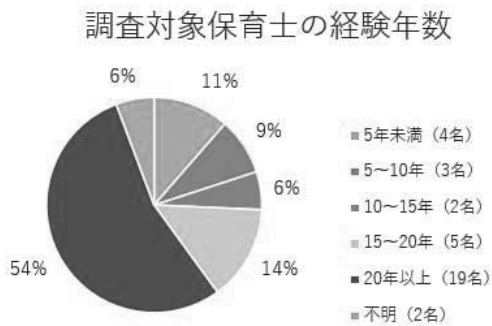


図 3 2023 年度足利市「調査対象保育士の経験年数」

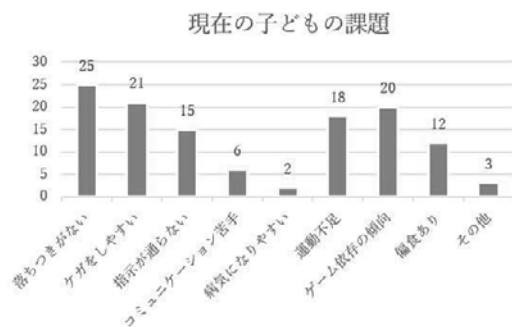


図4 2023年度足利市「現在の子どもの問題や課題」

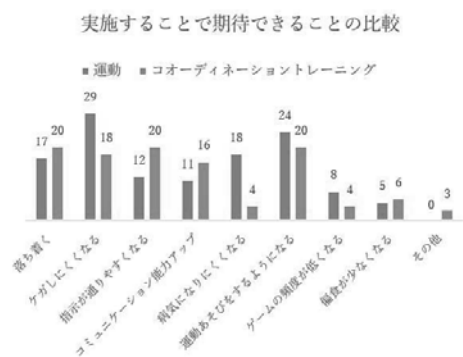


図5 2023年度足利市「CT実施によって期待できること」

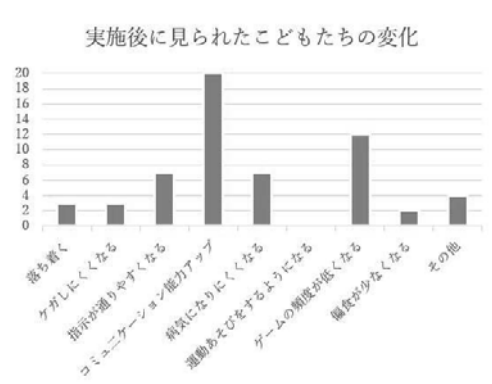


図6 2023年度足利市「CT実施後に見られた子どもたちの変化」

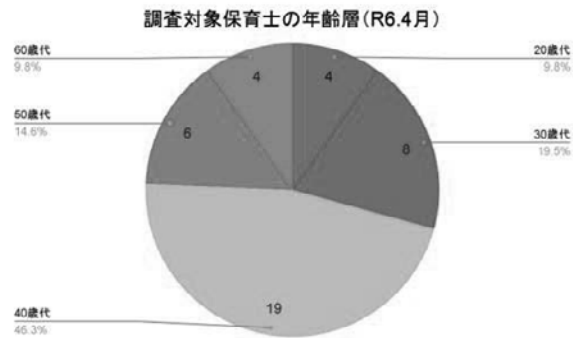


図7 2024年度足利市「調査対象保育士の年齢層（4月）」

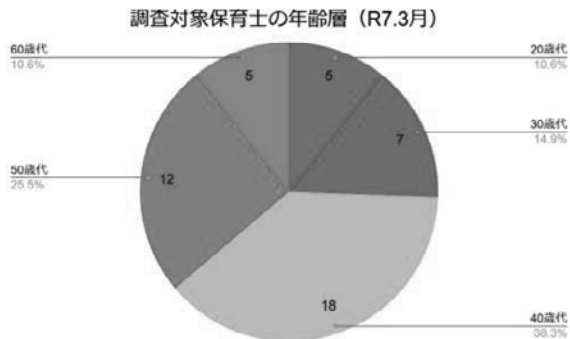


図8 2024年度足利市「調査対象保育士の年齢層（3月）」



図9 2024年度足利市「調査対象保育士の経験年数（4月）」



図 10 2024 年度足利市「調査対象保育士の経験年数（3月）」

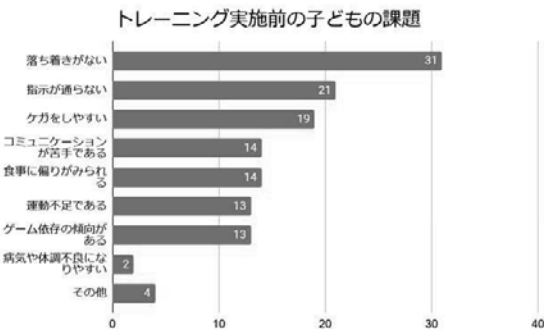


図 11 2024 年度足利市「現在の子どもの問題や課題」

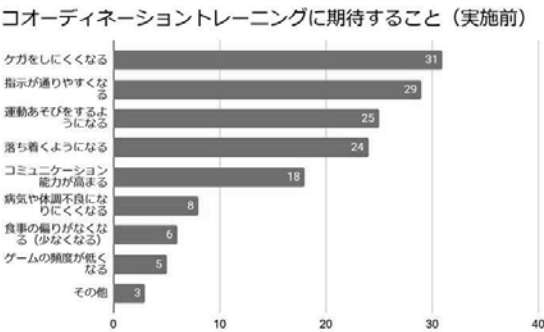


図 12 2024 年度足利市「CT に期待すること」

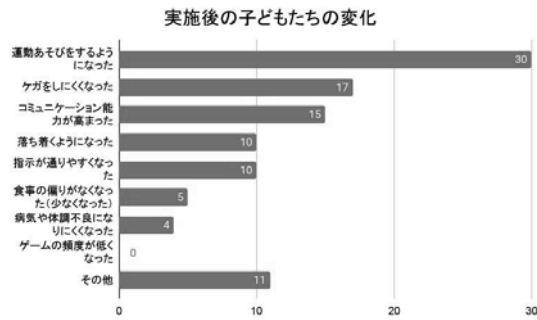


図 13 2024 年度足利市「CT 実施後に見られた子どもたちの変化」

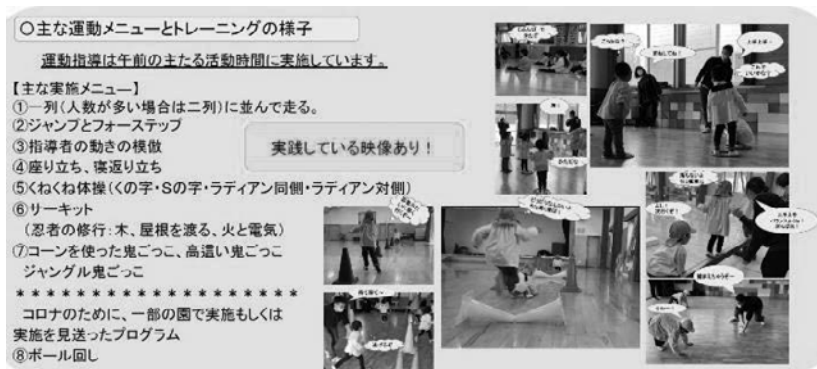


図 14 幼児での取り組み
文部科学省「情報ひろば」発表資料より

■全国体力・運動能力、運動習慣等調査(文部科学省)における体力合計点の平均値の推移

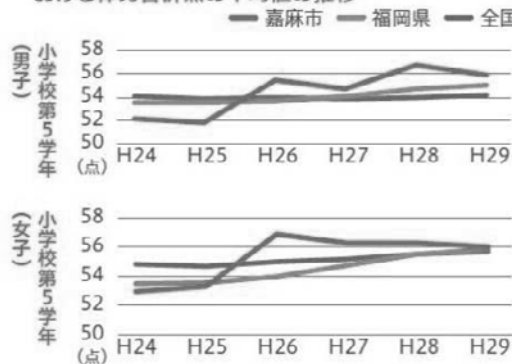


図 15 嘉麻市の体力テスト結果(広報嘉麻より引用)

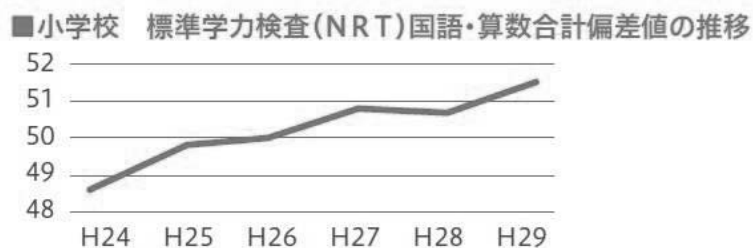


図 16 嘉麻市の学力テスト結果(広報嘉麻より引用)



図 17 嘉麻市の不登校児童生徒数の推移(広報嘉麻より引用)

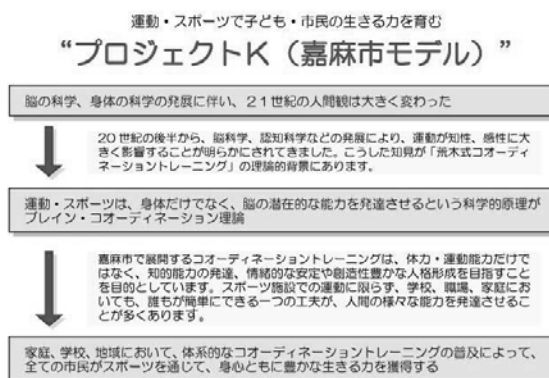


図 18 嘉麻市での取り組み「プロジェクトK」
(嘉麻市スポーツ推進計画より引用)

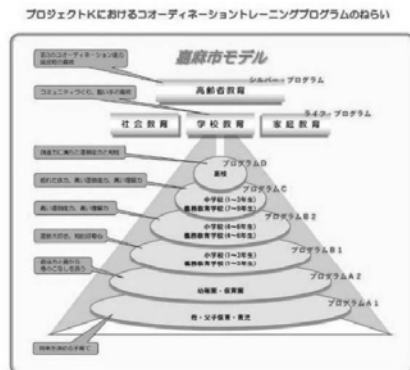


図 19 嘉麻市での取り組み「嘉麻市モデル」
(嘉麻市スポーツ推進計画より引用)

- プロジェクトK（嘉麻市モデル）のポイント
1. 「まちも、わが子も、この町で」という考えを共有する
→「わが子なごま」によって、人間は大きく成長することへの信頼。
→誰もが、「なんだか、希望が持てる」という思いを抱く……………人々の理想
 2. お金をかけず、できることから始める
→少の条件で、数層の上で成果を得る……………親と指導者のやりがい
 3. 子どもが喜ぶれば、大人も変わる
→家庭と市民協力を結ぶ。子育てを！
子育てを通じた社会人教育……………育てて、育つ大人たち
 4. 小さく始めて、ゆっくり育ててビックバン
→まずは、少人数であっても、多岐にわたる。
誰もが参加できるの参加型にして、まちを育てる……………嘉麻市への誇り
 5. コーディネーションからコミュニケーションへ
→少人数であっても、協力できる人・学校・施設のネットワークから
契機に始め、定るところでコミュニケーション。
実践と実践に導く参加型……………まちの活性化
 6. コミュニケーションからコミュニティへ
→子どもから大人までの生涯学習、生涯スポーツを通じて、
人材育成、人材育成、人材育成のまち、嘉麻市へ……………人材育成のまち、嘉麻市へ



図 20 嘉麻市での取り組み「プロジェクトK（嘉麻市モデル）のポイント」
(嘉麻市スポーツ推進計画より引用)



図 21 白河市「高齢者と幼稚園児コラボ」